

19. 七本薩軍墓地（薩摩軍七本柿木台場跡）

a. 調査地の現況（第 213 図）

七本薩軍墓地は植木町轟字立花木 2571-1 番（旧小字は鎌地）に位置する（本章第 206 図）。この地は戦時には薩摩軍の七本柿木台場があり、3 月 20 日に田原坂が落ちたのは、この台場での戦闘の敗北がきっかけだったといわれている。田原坂本道と表裏一体の関係にあり、田原坂の戦いのみならず、西南戦争全体を考えるうえで欠くことのできない、極めて重要な戦場遺跡といえる。

戦後には、この台場跡に薩摩軍兵士をまとめて葬ったとされ、田原坂の戦いにおける木留・七本付近で戦死した薩摩軍や党薩諸隊の熊本隊など兵士 300 人以上の墓所でもある。もとは明治 15 年（1882）に立てられた小さな墓碑 1 基があったのみで、官軍墓地に比べてあまりに質素であるため、平成 2 年に墓地公園として整備され、都市公園として位置づけられた。面積は 2,721 m²、北側の土地より一段高い。この北隣接地付近は昭和 59 年に削平工事や道路の付け替え工事が進められ、下写真にあるように旧三池往還（七本街道とも）に面する所では 1 m 近く削られている。これをみると、当地は、現状では公園化が進んでいるが、土地の大きな改変はないと考えられる。

以上を踏まえ、七本薩軍墓地について現況測量を行なった。



七本薩軍墓地北側の旧状（左）と現状（右）

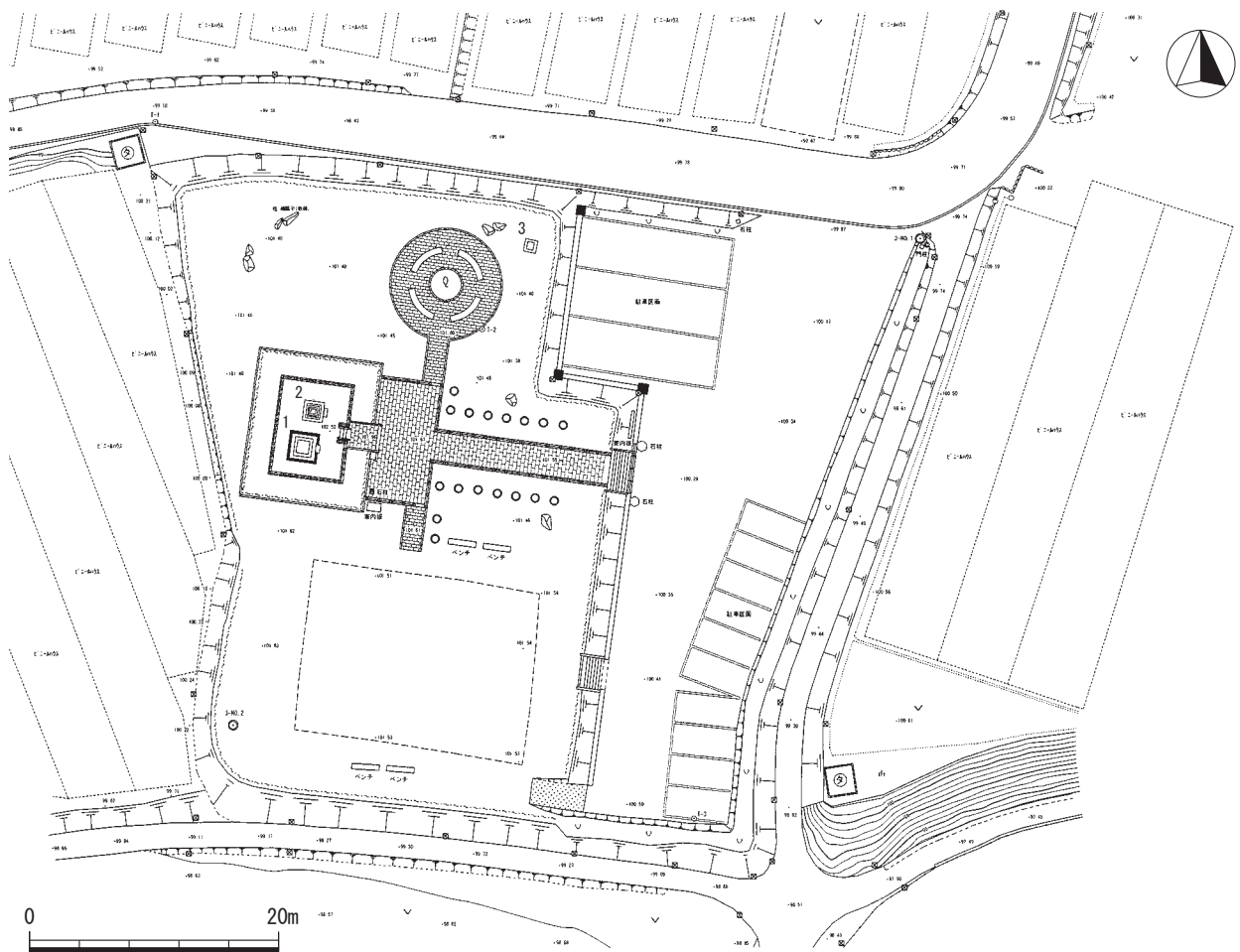


七本薩軍墓地の現状



正面石碑 1・2 と 1 の基礎銘（平成元年，植木町長銘）

北東隅の石碑 3
（昭和 11 年，丁丑感舊會造）



第 213 図 七本薩軍墓地（薩摩軍七本柿木台場跡）全体図（1 / 600）

b. 七本薩軍墓地の造営・改葬

(1) 墓地造営の経過

本墓地は、旧三池往還（現主要地方道熊本原坂線）の西側約 110 m に位置する（本章第 206 図）。この地に墓地が造成された経過について、既往成果（中村 1990）をもとに記す。

○ 明治 10 年 5 月 18 日付、第 5 大区 9 小区副戸長・区長連名（9 小区は現植木町北西部一帯、本墓地も含まれる）、熊本県令富岡敬明宛：『戦屍埋葬之儀ニ付伺』「…賊屍埋葬所之内、埋陸浅薄ニテ間ニ屍体相

露或ハ臭氣蒸発之所ケ所モ有之趣ニ付、右等之所ハ来ル廿三日迄ニ修繕相加エ可申旨、番外乙第十二号御達之趣敬承仕候、然処第五大区九小区轟村之儀…三月廿日七本口御進撃之砌賊死体数百有…」

薩摩兵の遺体が浅く埋められたため、遺体が露になったり臭気を発したりする箇所を手当するようにとの通達は承ったものの、轟村には3月20日の七本口での戦闘による薩摩兵の遺体が数百はある、と訴えている。続いて、遺体は道の側溝や畑の畦畔に埋葬しており、将来の道路拡幅や営農の妨げになる、また、このまま推移すれば墓地が何箇所にもなるとの危惧から、以下の提案と願いを申し出ている。

「…瘠悪地ヲ見立一ヶ所又ハ二ヶ所ニ持寄セ埋葬致セ申度、左候へハ床地代金并埋葬夫賃金等ハ可被渡下哉、此段奉伺候…」

瘦せた土地を1カ所か2カ所を選び、埋葬したいと思うので、については土地代金と埋葬のための人夫賃金などを支給していただけるか、と伺っている。

○ 明治10年6月12日付、第5大区9小区副戸長・区长連名、熊本県令富岡敬明宛『賊徒死屍合葬費御出方願』
「…先三十一日ヨリ合葬取掛申候、処殊外腐敗イタシ居臭気強、人夫共モ大ニ及困却、月本月四日、合葬相済候ニ付、地代金并人夫賃金口立之通被渡下候様此段奉願候事」

前記5月18日付の願い出が許可されたことを受け、5月31日～6月4日に薩摩兵の遺体を合葬し、その土地代金と人夫賃金の支払いを願い出ている。墓地は轟村字鎌地と円台寺字河原立の2カ所で、前者が七本薩軍墓地である。本墓地の広さは「一畝歩」、土地所有者は「後藤健三郎」、土地代金は3円50銭で、薩摩軍兵の遺体329人を合葬し、人夫130人を雇った経費が164円50銭(1体の処理につき50銭)である。

○ 明治11年10月13日付、第5大区9小区副戸長、熊本県令富岡敬明宛『賊徒戦死ノ墓標建方入費御下渡願』
「墓標相立佗ノ人民墓所ト紛レザル様取計…墓標建設仕置候間、本代并大工手間料等本行ノ通御下渡被下候様、此段奉願候事」

戦争の翌年、一般住民の墓と混同しないよう留意し墓標を立て、その支払いを願い出たものである。墓地は轟村字鎌地(本墓地)の他、滴水村字古閑原・荻迫村字四ツ塚・円台寺字河原立の4カ所で、各墓地につき墓標1本を立て、計4本の代金が60銭(1本につき15銭)、その他、大工手間賃が40銭である。墓標の形状・大きさは「式本五寸角長五尺、式本四寸角長四尺」(概ね15cm角長さ152cm、12cm角長さ122cm)で、大工が関わっていることから木製であったことが判る(本章第210図参照)。

(2) 墓地の改葬

各薩軍墓地に合葬された遺体は、その後、有志により回収されたとされる。本墓地個別についての詳細は不明であるが、これに関連する新聞記事(水野2007)を以下に紹介する。

○ 紫溟新報、明治16年(1883)2月25日記事『戦骨帰葬』「…薩人の死骸は今度同県の有志者が残らず帰葬する事は嚮きにも報道せしが、去る二十日七名の鹿児島人が…白木の箱を柁へ遺骸を納めて故郷に送り葬る支度あり…」

○ 紫溟新報、明治16年3月20日記事『戦骨改葬』「…薩人各地の遺骸骨は…田原・山鹿・御船・木山・黒川等熊本近傍及其北東部の分は最早悉皆堀取り、其の数凡そ千有余名にして費額千余円なるが…三州社へ寄附されし壱万二千円の内を以て取り賄ひ…海路より同県下へ運送する手筈なりときけり」

鹿児島出身の戦死者の遺族にとって、遺骨を故郷に迎えることは強い願望であり、明治16年、七回忌を期して各墓からの回収作業が有志により実施された。「熊本近傍及其北東部の分」は悉く回収し、そのなかには「田原」とあるので本墓地の遺骨もこれに含まれていると考えられる。遺骨は白木の箱に納められ、海路にて運ばれた。費用は、薩将河野主一郎が中心となった三州社が負担している。

c. 『従征日記』挿図に見る薩摩軍七本柿木台場(第214・215図)

川口武定『従征日記 巻一』明治10年3月20日の挿絵に「野津少将等立花木壘上ニ在リテ田原阪畧取

ノ報ヲ得ルノ図」がある。20名近くの薩摩軍兵士の死骸と小銃・刀・胴乱・帽子・弾薬箱・胸壁の俵土嚢などが描かれており、これに加えて文章でも戦闘直後の混乱した、また凄惨な状況が記されている。薩摩兵の服装は「陸軍旧正服、或ハ海兵服、小紋股引ヲ着シ、後裳ヲ褰け、或ハ莫大小（メリヤス）ノ袴下等ヲ服スル者アリ」と様々で、政府軍の一樣な肋骨服とは対照的である。

挿絵の墨は薩摩軍七本柿木台場付近であると判断され、このことは山（金峰山三ノ岳）の稜線からも証左できる。しかし、挿図右上の題字中の「立花木」は字図によると本墓地の隣接北側一帯であり、本地の位置は殆どが「鎌地」に含まれている。現状では挿絵場所の特定には至っておらず、今後の検討課題である。

〔参考文献〕

中村稲男編 1990『西南の役田原坂資料集 歴史のはざまに』

植木町・植木町教育委員会

水野公寿 2007「西南戦争の戦死者—その埋葬と慰霊」

『近代熊本 No. 31』熊本近代史研究会



第 214 図 「立花木」の地名が見える字図 (1/20,000)



※川口武定『従征日記 卷一』より転載

第 215 図 田原坂の戦い直後の薩摩軍陣地（七本柿木台場付近と推定）の状況